

＜中学校 社会科＞

社会科における主体的に学ぶ意欲を育む学習指導の工夫

—問題解決的な学習における表現活動を通して—

南風原町立南星中学校教諭 儀間 盛伸

内容要約

生徒が自ら学習問題に取り組み、自分なりの方法で調べ、まとめたことを表現していく問題解決能力の育成をめざして研究を行った。

問題解決的な学習において教師が様々な支援を行うことで生徒の主体的に学ぶ意欲を高める糸口になった。

【キーワード】 主体的に学ぶ意欲 問題解決的な学習 教師の支援 表現活動

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究仮説	52
III	研究内容	52
1	主体的に学ぶ意欲と問題解決的な学習	52
2	社会科と表現活動	53
3	問題解決的な学習における表現活動と支援	53
IV	授業実践	55
1	単元名	55
2	単元設定の理由	55
3	単元の指導目標	55
4	単元の指導計画	55
5	単元の評価	57
6	本時の指導計画	57
7	仮設の考察	59
V	研究の成果と今後の課題	60
1	成果	60
2	今後の課題	60

＜中学校 社会科＞

社会科における主体的に学ぶ意欲を育む学習指導の工夫

—問題解決的な学習における表現活動を通して—

南風原町立南星中学校教諭 儀間 盛伸

I テーマ設定の理由

中学校学習指導要領(平成10年)では、生徒の「生きる力」の育成を基本的なねらいとし、また「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力」の育成が示されている。それをふまえて、社会科においても学習指導の改善が求められる。その中で、「生徒の興味・関心・意欲を生かし、自主的、自発的に学習が進められるような授業の工夫」また「作業的、体験的学習」「問題解決的な学習」など多様な学習の展開が重要視されている。特に今回の改定では、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力を身につけ、問題を発見し解決する能力の育成をめざす授業展開がより一層望まれている。

これまでの実践では、一問一答式の発問が多く、教師主体の授業の進め方が中心で、生徒の意欲や関心を高めたり、見通しをもって、調べ、考えを深めるような授業展開は十分ではなかった。そのため、社会的な事象に対して、意欲や関心を持って学習をすすめ、問題の解決に取り組むことはできなかった。実際何度か試みた問題解決的な学習でも、新聞作りが面白い、インターネットや図書館で調べるのは楽しいなど意欲的ではあるが、実際の活動を進める上で次のような課題があった。

まず、教師の指導・支援が不十分なために、生徒は何をどのように調べるのかの見通しをもつことができなかった。そのために学習内容が深まらず、単元の目標やねらいに到達できないことが多かった。次に、調べたことをまとめて発表する際に、相手に対してわかりやすく、効果的な表現の方法を用いて発表することが不十分であった。

これらの課題を解決するためには、問題解決的な学習の各段階における生徒の実態把握が重要である。その上で、生徒の実態に対応した助言や効果的な教材の提示、話し合いの場の設定、学習形態の工夫を支援することで問題解決的な学習の定着を図るための学習指導の工夫を行った。次に表現活動に関しては、表現する内容の充実が必要であり、発表に至るまでの段階の指導が重要となる。特に、どんな資料を収集し選択し分析するか資料活用能力を育てることが、表現する内容を充実したものにする。そして、自分の調べたことやまとめたことを相手に伝えるための表現活動に対する生徒の関心・意欲また表現技能を把握する。その上で、具体的に多様な表現活動ができるように話し合いの場を設定したり、壁新聞、紙芝居、劇化またTPや写真、ポスター作成などを複合的に組み合わせる方法を提示する。このような支援を通して多様に表現する力が高められるよう工夫を試みた。

問題解決的な学習の各過程で積極的に生徒と関わり、実態を把握した上で、適切な支援を行うと問題解決的な学習の方法が身につけ、多様に表現する力が高まり、学ぶ楽しさや満足感、成就感を味わうことにより、主体的、意欲的に学習に取り組むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 問題解決的な学習過程の各段階において、生徒の実態に応じた助言やビデオなどの視聴覚教材の活用、学習形態の工夫、話し合いの場の設定など適切な支援を行うと、自分なりの学びの方法や考え方を身につけ、学ぶ喜びや満足感、成就感を味わうことで主体的に学ぶ意欲を育むことができるであろう。
- 2 生徒の思いや願いを把握し、表現方法の提示や助言など適切な支援をすれば、生徒は多様な表現活動ができるであろう。

III 研究内容

1 主体的に学ぶ意欲と問題解決的な学習

(1) 主体的に学ぶ意欲を持つ生徒

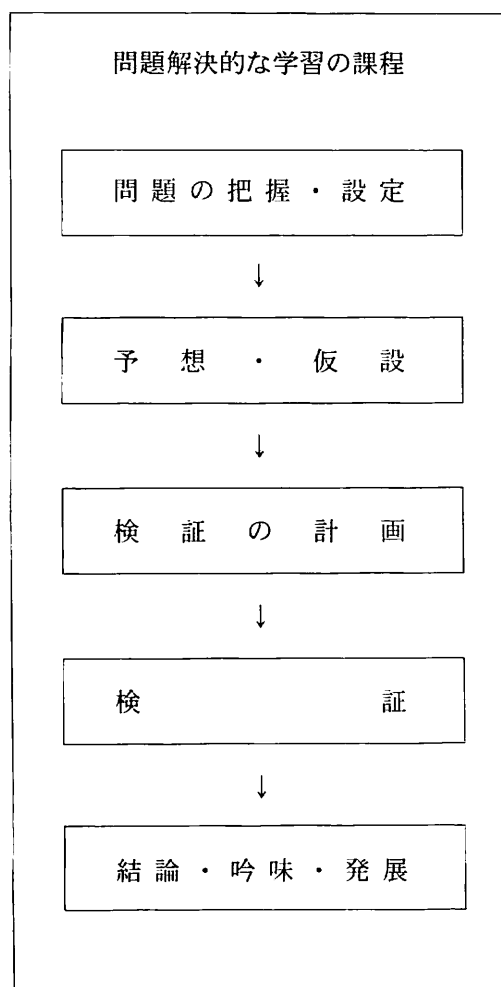
学習意欲は本来目に見えるものではなく、生徒の行動の特徴から推測されるものである。学習意欲の高い生徒の行動の特徴として一般的に集中力があり、学習活動が活発である。そして提示された学習内容だけを学ぶのではなく、さらにその知識を広げ、内容を深めることができる生徒である。

また生徒の行動的な面だけでなくその内面からも、なぜ学ぶのか、その理由や目標を認知していること。さらに「わかるようになりたい」「目標を達成したい」という積極的な思いを持った生徒は学習意欲が高いと思われる。そして実際に学ぶことの喜びや感動を体験することによって、より一層学習に対して意欲的・主体的に取り組むことができると考えられる。

そこで主体的に学ぶ意欲を持つ生徒の姿を次のように捉えたい。生徒自らが進んで学習問題に取り組み、予想を立て、解決に必要な情報や資料の見通しを持ち、自分なりに調べる方法や目的を考えて、学習問題の解決を図り、相手に対してわかりやすく表現するまでの学習を意欲的に行うことができる生徒であると捉える。

(2) 問題解決的な学習の基本パターン

生徒の主体的に学ぶ意欲を育てる学習を保障する一つが問題解決的な学習である。問題解決的な学習にはそれを支える基本的な学習の段階がある。この学習段階を指導する際は、概念として教えるのではなく、生徒の学習実践に対応して経験的に指導していくことが求められる。以下は、生徒に習得させたい問題解決的な学習の段階を示してある。



問題の把握・設定の段階

単元のねらいや指導目標を見据えて、学習問題を見つけ設定することができる。

予想・仮設の段階

経験や知識に基づいて「～だろう」と推量し、学習問題に対して「もし～ならば・・・のはずだ」というような仮説を立てることができる。

検証の計画の段階

予想や仮説をもとにして問題を追求する観点を持ち、何をどのように調べるかの計画を立てることができる。

検証の段階

検証計画にもとづいて、資料や情報の収集を行い、自分の仮説が正しいか調べることができる。

結論・吟味・発展の段階

調べたことをまとめて、わかりやすい表現を用いて発表することができる。そして活動を確認し、自己評価することができる。また新たな学習問題を発見することができる。

問題解決的な学習の各段階における方法や目的を理解させるためには、この学習過程をくり返し行うことである。そして、問題解決的な学習のやり方が定着し、機能していくようになると問題を解決しようとする資質能力が高まり、主体的に学ぶ意欲が育まれる。

2 社会科と表現活動

(1) 表現活動の特性

① 表現活動は人間の本性に基づく

授業の中で行われる表現活動は人間の基本的な表出であると考えられる。そこで、生徒の主体性や意欲的な表現活動を重視する授業展開を進めると生徒の本来持っているエネルギーが授業の中で発揮され、生徒主体の活気のある授業を成立させる要件となる。

② 表現活動は認識を深める

生徒は、日々の生活の中でいろいろな事象についての認識を単に受容的に獲得するものではない。自分で調べ、考えたことなどをまとめた過程を言語、絵、身振りなどで、表現することで、自分の考えをより明確にして整理する。それが、事実や現象への認識を深めていくことになる。つまり表現することを通して意欲が高まり主体的・体験的に自分の考えを深めていくことができる。

③ 表現活動は、創造性を育てる

生徒にとって表現するということは、自分の言葉やいろいろなパフォーマンスを通して新しいものを創り出す活動となる。表現活動は、何をどのように表現するかの見通しがたち、追求の方法がはっきりとわかったときに具体的となり意欲的となる。このような活動の過程は実証的で具体性をもつことと深い関係がある。表現活動は生徒にとって身近かで興味や関心がもてる教材との出会いがより効果的である。授業において表現活動を取り入れていく過程で実証的・具体的な追求の過程を支援し時間を確保すれば、生徒のイメージが豊かになり創造的な思考活動が促される。

(2) 社会科と表現力

社会科において表現活動は、学習問題を第三者に対して効果的にわかりやすく発表したり、レポートなどの形式でまとめて報告するだけでなく、資料の収集・活用を通して多面的・多角的に考え判断し、まとめて発表するまでの過程を含んでいる。つまり、学習問題に対して、必要な資料をどのように収集するか、またその資料の中から問題の解決に迫れるものを選択し、活用して、自分の考えや判断に基づいて結論に達する過程を示しながら第三者に対して的確に、わかりやすく伝える活動を表現活動という。

また、社会科における表現活動は大きく2つに分けることができる。1つは、内面的・主観的な度合いの高い内語的 (inner speech) ・静的な活動である。つまり自分の頭の中で表現したいことを資料を活用し、自分なりの学び方を通して考えてまとめる活動である。2つめは視覚的・聴覚的で伝達機能が高い動的な活動である。これは、自分が結論に導いた過程を第三者に対して多用な方法で表現する活動である。

以上のことから、表現力は独立したものでなく、思考力や判断力と深い関係があり、思考力や判断力が高まると表現力も高まる相互作用の関係がある。表現力が高まると生徒は資料を活用し、多面的・多角的に思考をはたらし、社会的事象に対して公正な判断を行い、社会的なものの見方や考え方を育てることにもつながるといえる。

3 問題解決的な学習における表現活動と支援

問題解決的な学習を通して、生徒の表現する力を高めるには、各段階における表現との関わりを把握し、生徒の実態に即した単元構成の工夫、教材の提供、生徒間の話し合いの場の設定など、教師が生徒の表現力を高めるための支援が重要になってくる。次頁の表は問題解決的な学習の各段階における表現活動の関わりと教師の支援を表したものである。

	問題解決的な学習と表現活動の関わり	☆ 教 師 の 支 援
問題の把握・設定	- 単元のねらいや目標を達成できるような学習問題を設定していく段階である。 - 生徒が興味・関心を持って、学習問題を意欲的に追求し、問題を解決して表現していく意欲を高める。	☆生徒のもつ疑問、矛盾、驚き、意外性、共感などを与える資料を提供する。 ☆生徒のイメージを膨らませるために視聴覚教材を活用する。 ☆生徒は何がわかって、何がわからないのか、発問を通して実態を把握し学習問題を設定するための整理をし助言する。 ☆学習形態をグループ学習とする。
予想・仮設	- 学習問題に対して予想を立て、仮説を考える段階である。 - 予想や仮説を立てさせることによって、どのような内容を、どのような方法で調べるのかを考えさせ、そのことによって表現の内容や目的を明らかにさせる。	☆既習事項や経験をもとに予想するように話し合いの場を設定する。 ☆根拠のある予想が立てられるように助言していく。
検証の計画	- 仮説を検証するためにどのような資料を収集するかを考え、計画を立てる段階である。 - 問題解決的な学習過程を通して、どのような情報や資料が表現する内容をわかりやすくするかの見通しを立てさせ、具体的な追求の方法を見つけさせる。	☆調べ方やまとめ方について話し合いの場を設定し、具体的に見通しを立てさせるように助言する。 ☆図書館の本やインターネットの利用について説明し、どんな資料や情報が必要かのヒントを与え、ポイントを指摘して検証計画の支援をする。 ☆具体的でわかりやすい資料をいくつか提示し、いろいろな検証の方法に気づくよう助言する。
検証	- 検証計画に従って、資料や情報を収集し、問題を追求させ、学習問題や仮説と調べたことをもとに検証していく段階である。 - 検証計画に基づいて表現の内容に必要な情報や資料を収集させ、表現の目的や方法を明確化、具体化させることによって発表に対する意欲を高めさせる。	☆図書館やコンピューター室などが効果的な活用ができるように生徒の活動を把握して、必要に応じて助言する。 ☆学習問題や仮説に結びつく資料や情報を収集するように助言する。 ☆資料や情報をもとに、学習問題や仮説をいろいろな角度から検証できる様に助言する。
結論・吟味・発展	- 検証したことをまとめ、それを多様な方法で表現することにより、自分の考えや調べる方法や内容を吟味し、新たな学習問題に気づかせる段階である。 - 自分の学びや学びの方法を生かして新たな学習問題や生活の中のいろいろな疑問を追求する意欲を高めていく。	☆個々の意見を出し合い、自分の考えと比べることで友だちのよさや違いに気づき、より学習内容が深まるように、話し合いの場を設定する。 ☆壁新聞や紙芝居など具体的な資料を提示することで、多様な表現の方法について考えさせえたり、発表のイメージを広げる支援をする。 ☆発表の中で具体的に良かった点を強調し、意欲を喚起するために賞賛する。

上の表から表現活動は発表するだけのものではなく、それに至るまでの各段階における学習の定着や充実が、表現する内容や目的と大きく関わることが言える。発表する段階では調べてまとめたものをわかりやすく、より効果的に相手に伝える活動になっていく。

問題解決的な学習過程において、教師が表現を含めて適切な支援を行うと生徒は主体的に学ぶ方法や学ぶ内容を身につけ、自分の思考を働かし、判断する力を高め、学習問題の解決に迫り、解決した時の喜びや感動を味わうことになる。とりわけ、自分の思いや願いを多様な表現の方法を用いて、相手に伝え、その表現に多くの賞賛があると、満足感や成就感が大きくなり、生徒は主体的に意欲を持って学習を継続していくことになる。

IV 授業実践

1 単元名

アメリカ合衆国の特色を調べよう

2 単元設定の理由

- (1) 教材観（省略）
- (2) 生徒の実態（省略）
- (3) 指導観（省略）

3 単元の指導目標

アメリカ合衆国は世界一の農業国である。広大な国土と自然が農業とどのような関係にあるか、関連して人種の問題を考える時に南東部に黒人が多い理由を調べることができる。また工業地域がなぜ東北部に集中しているのか理由を資源や交通の便など地形や自然との関わりで考えることができる。

4 単元の指導の流れ 【9時間】

時間	学習内容	学習活動	教師の支援と留意点 支援・・・☆ 評価・・・◇
2	・問題解決的な学習について アメリカ合衆国の概略（テーマ） ・広大な国土と自然 ・世界一の農業国 ・世界の先端工業国 ・多民族国家 ・大都市の問題点 学習問題の把握	・問題解決的な学習について理解する。 ・アメリカ合衆国についてのビデオを見る。 ・生徒の予想される答え 土地が広い 機械化された大規模農業 シリコンバレーについて なぜいろんな人種がいるか 銃の犯罪が多い ・グループを作る。	・問題解決的な学習についてフラッシュカードを用いて説明する。 ☆生徒に学習のねらいと内容のイメージを膨らませるためにビデオを見せる。 ・アメリカ合衆国について調べたいことや不思議に思うことを発表させる。 ☆生徒の発言を板書し、学習問題のヒントになるような発問を、生徒とのやり取りの中で、学習問題につながるように助言する。 ・できるだけ同じテーマをもつ生徒同士のグループ編成に配慮する。
2	学習問題の設定 ①地域によって自然の特色がどのように違うか ②なぜ、世界一の農業国 ③東北部で工業が発達しているのはなぜか ④どうしてアメリカ合衆国にはいろいろな人種がいるか ⑤なぜ都市で犯罪が多いか 学習問題の予想 なぜ、アメリカにいろいろな人種がいるのか 学習問題の仮説 黒人は、どれいとしてつれてこられた。 白人は、アメリカの土地がほしくて移住してきた 学習問題の検証計画 ○アメリカにいろいろな人種はなんのために、どこから来たのか。 ○先住民は、何人だったか。 [アメリカ] ○何系がタリカー [タリカー] ○ヒスパニックとは何か。 [ヒスパニック] ○アメリカの差別に関係する法律はなにがあるか。	・各グループで学習問題を設定する。 ・予想を立てる。 ・仮説を立てる。 ・検証の計画を立てる。	☆学習問題の設定のため、話し合いの場を設定する。 ・学習問題の設定、予想、仮説は、教科書、地図帳、資料集をもとにグループで話し合って決めるように指示する。 ◇関心・意欲 【自己評価】 【観察】 各テーマについてすすんで調べわかったことをもとにグループなりの学習問題をつくる。 ◇思考・判断 【自己評価】 【観察】 学習問題の予想、仮説を立てることができる。 ☆学習問題の予想や仮説をもとに検証計画の見通しが立てられるように具体的な資料(写真・絵・パンフレット・インターネットの情報、ビデオ、自作のアメリカの歴史をまとめたプリント、その他)を提示する。 ◇関心・意欲・態度 【観察】 【自己評価】 グループの話し合い活動において意欲的に意見を言うことができる。

学習問題の検証

- ・ 検証計画をもとに、学習問題の解決に必要な資料や情報を収集・選択して調べる。
- ・ 収集した資料をもとに選択、分析、活用してをまとめる。

学習問題の結論

発表と表現の方法

①グループ <劇化>

アメリカ合衆国を西から東に飛行機で移動しながら、TPを用いて地形の説明を乗客が、司会はフライトアテンダーが行い、観光ポイントを紹介する。

②グループ <壁新聞>

壁新聞を通して、アメリカ合衆国の農業をグラフや地図を用いて説明したり、クイズを出したり、TPで農業の問題点を写真から紹介した。ALTとのインタビューから若い人が農業をやりたいがらないことなど日本との共通点を見つける。

③グループ <壁新聞>

壁新聞を通して、アメリカ合衆国の工業をグラフや地図を用いて説明したり、TPを用いて多国籍企業を説明する際にマクドナルドの世界進出をグラフで表す。

④グループ <紙芝居>

アメリカの歴史を紙芝居を通して紹介し、いろいろな人種がいることを解りやすく伝えた。現在のアメリカの人種の構成についてグラフを用いて説明する。

⑤グループ <TP及び模造紙による表示>

ロサンゼルス暴動をインターネットで調べ、事件について説明した。人種差別の問題が、いまでもなくならないことをビデオから調べ発表した。ニューヨークと東京の年間の犯罪件数と銃による犯罪の件数を図書館の本で調べ、アメリカ合衆国の影の部分表現する。

- ・ 発表後に質問をする、発表したグループはそれに答える。



質問に答える生徒

- ・ アメリカ合衆国のまとめのワークシートをやる。
- ・ ミニ新聞を作る。

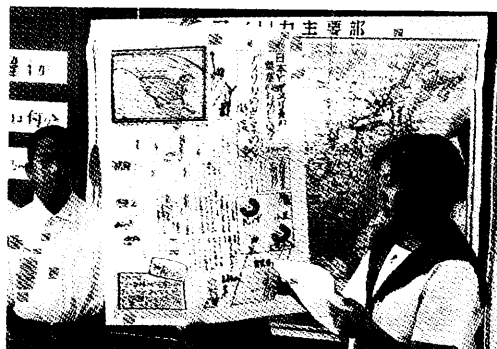
◇資料収集技能 【観察】 【自己評価表】

様々な資料を検証計画に基づいて収集、選択し、検証することができる。

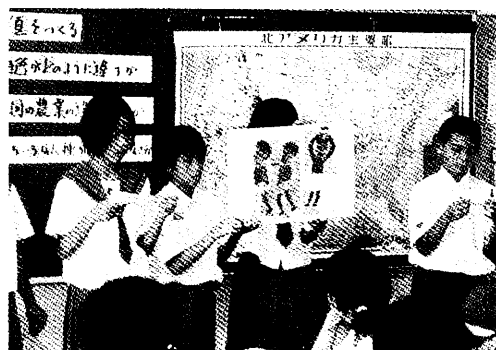
◇資料活用技能 【自己評価】

発表に必要な資料を選択、分析して、効果的に活用することができる。

☆発表の（まとめる）方法については、多様な表現ができるように、あらかじめいくつかの方法を用意し、困っているグループには助言を行う。（壁新聞・紙芝居・劇化・TP）



壁新聞を中心に発表する③グループ



紙芝居を中心に発表する④グループ

◇表現・資料活用 【観察】 【自己評価表】

表現の方法を工夫し、意欲的に発表することができる。

☆質問に答えられないときは説明する。

☆発表終了後は各グループのよさを紹介し、各段階の活動で頑張った生徒、内容の視点、発表の工夫、グループのよさを賞讃し、意欲を喚起させる。

◇知識・理解 【ワークシート】

◇思考・判断・表現 【ミニ新聞】

5 単元の評価

観点別評価基準（思考・判断は農業を提示、自然・地形、工業、人種、都市の問題は省略）

	評価場面	具体的評価目標	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
関心・意欲	・各グループで決めたテーマをもとに学習問題をつくる場面。 観察・自己評価	・アメリカ合衆国についてすすんで調べわかったことをもとにグループで学習問題をつくることができる。	・テーマについてすすんで調べて、わかったことをもとにアメリカ合衆の社会的な事象を理解するのにできるだけ適切な学習問題をグループでつくるができる。	・テーマについてすすんで調べ、わかったことをもとにグループなりの学習問題をつくることできる。	・教師の支援をうけてテーマについて調べ、学習問題を作ることができる。
思考・判断	・農業人口が3%にもかかわらず、高い生産と世界一の輸出を誇っている理由を、根拠をあげながらまとめ、発表する場面。	・農業人口が3%にもかかわらず、高い生産と輸出を誇っている理由について、具体的な根拠をあげながら考えることができる。	・農業の人口が少ないにもかかわらず、高い生産と輸出を誇っている理由を、広大な土地、大型機械の使用、肥沃な土地、恵まれた気候など適地適作などの面からも、考えて発表できる。	・農業人口が少ないにもかかわらず、高い生産と輸出を誇っている理由を、広大な土地、大型機械の使用という面から考えて発表できる。	・教師の支援を受けて、農業人口が少ないにもかかわらず、高い生産と輸出を誇っている理由を発表できる。
資料活用・表現	・グループ別に調べたことをまとめて発表する場面。 観察・自己評価	・検証計画をもとに調べたことを学習問題と関わらせながら発表することができる。	・検証計画をもとに調べたことを地図やグラフなどを用いて、学習問題と関わらせながら、多様な表現を用いて発表することができる。	・検証計画にもとづいて調べたことを学習問題と関わらせながら発表することできる。	・教師支援を受けて検証計画にもとづいて調べたことを発表することができる。
知識・理解（省略）					

6 本時の指導計画

(1) 単元名

アメリカ合衆国の特長を見つけよう

(2) 本時の指導目標

- ① 各グループの発表からアメリカ合衆国の特色について理解できる。
- ② これまで調べたことを多様な方法で表現し、自分の言葉で発表できる。

(3) 授業の仮説

生徒の思いや願いを把握して適切な支援を行うと生徒が主体的に多様な表現の方法を用いて発表することができるだろう。

(4) 本時の評価基準

評価場面 <方法>	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する
【資料活用技能・表現】 ○調べたことをグラフや表を用いて説明し、自分の考えを発表できる。 ＜自己評価＞＜観察＞	・調べたことを自分の言葉でグラフ、表、写真などを用いてわかりや説明し、自分の考えを多様な方法で発表することができる。	・調べたことをグラフや表などを用いて説明し、自分の考えを発表できる。	・調べたことを教師や仲間の支援を受けて表現することができる。

(5) 展開

	授 業 の 流 れ ○・・・予想される生徒の発表	留 意 点 ・ そ の 他 ☆・・・支援 ◇・・・評価
7	・本時の目標を確認する。 ・各グループの「学習問題」を発表する。 ・発表する側と聞く側の態度を確認する。 ・各グループで発表する。 ・発表後に他のグループは質問をする。	・発表する側と聞く側の態度について説明する。 ・各グループのテーマを掲示する。 ☆質問に答えられない場合は説明する。
20	①グループ <劇化> 「地域によって自然の特色がどのように違うか」 ○アメリカ合衆国の地図を用いてロッキー山脈と日本の国土の長さを比較する。 ○教科書の90ページの内容にしたがって飛行機でアメリカ合衆国を西部（ロサンゼルス）から東部（ニューヨーク）までの旅の様子を説明する。	◇表現・資料活用 アメリカ合衆国の地形や自然について地図や写真などを用いて、表現の方法を工夫して発表できる。
40	②グループ <壁新聞> 「日本とアメリカ合衆国の農業の違い」 ○世界の農林水産の生産量からアメリカ合衆国が世界一の農業国であることを発表する。 ○アメリカ合衆国の地形や自然との関わりで農作物の産地が違うことを発表する。 ○小麦の刈り入れ請負業者の生活の様子から、広大な農地と大型機械を使った大規模農業であることを説明する。	◇表現・資料活用 グラフ・表・写真などの資料を活用して、なぜアメリカ合衆国が世界一の農業国であるかを発表できる。
50	④グループ <紙芝居> 「アメリカ合衆国にいろいろな人種がいるのはなぜか」 ○アメリカ合衆国の歴史から、インディアン・黒人・白人・アジア系などの民族がアメリカ合衆国を構成していることを説明する。 ○なぜ人種差別が起きるかを、歴史やアメリカ社会の問題点から説明する。 ・自己評価を記入する。 ・次の時間を確認して終わる。	◇表現・知識 アメリカ合衆国が多民族国家である理由を歴史を通して解りやすく多様な表現を用いて説明できる。 ☆発表・質問終了後は各グループのよさを話し、各段階の活動で頑張った生徒を紹介し激励する。発表内容や方法の工夫など、よさを賞讃し、意欲を喚起させる。

7 仮説の考察

仮説1について【問題解決的な学習過程の各段階において生徒の実態に応じた助言やビデオなどの視聴覚教材の活用、学習形態の工夫、話し合いの場の設定など適切な支援を行うと、自分なりの学びの方法や考え方を身に付け、学ぶ喜びや満足感、成就感を味わうことで、主体的に学ぶ意欲を育むことができるであろう。】

・学習問題の把握・設定の段階における教師の支援と生徒の変容

学習問題を決めるために、話し合いの場を設定しグループの話し合いに教師も積極的に参加し助言を行った。生徒一人一人がアメリカ合衆国についての既存の知識や情報が少ないために、話し合いがうまく進まないため、興味や関心を引きだすまでに至らずそのため、アメリカ合衆国についての疑問や調べたいという意欲を十分に喚起できなかった。

はにきすおはよく分からなくて先生か
りてをもらててきた。

・予想・仮説の段階における教師の支援と生徒の変容

教科書を中心に自分たちで決めたテーマや学習問題について調べ、予想や仮説が立てられるように助言を行った。話し合いの場を設定し、グループで協力して学習が進められるように支援した。生徒は学習問題に対する予想や仮説を立てることに必要な基礎的・基本的な学習をグループで行い、また教師の支援を受けて予想や仮説を立てることができた。グループでの話し合いは、一人一人が自分の考えを発表し、お互いの意見について話し合うまで高まってい

り先生からいふことをもらて学習問題予想を立て
ていふ人はいふ人だけ自分で考えていた

・検証計画の段階における教師の支援と生徒の変容

学習問題の予想や仮説の解決に必要な情報や資料の内容、収集の方法について話し合いの場を設定した。検証計画については検証に必要な資料や情報をいくつか収集し、いろいろな角度から学習問題や仮説に迫れるような計画を立てるように助言した。生徒は学習問題の把握・設定の段階からグループテーマについて学習してきたために、予想や仮説を教師の支援のもと立てられるようになり、この段階では具体的な検証の計画を立てることができるようになった。話し合いも一人一人が自分の意見を言うことができ、それについてグループで話し合いまとめることができた。そのため学習問題や仮説に対する見通しが立ち、活発な学習への取り組みが見られるようになった。

1人1人こまかいテーマでしりていてまと
ました。みんな自分のいふを出していき
てみんなのいふをいりあてり先生もい
ていました。今日はいいがかったが
いふちう笑ってなもしろがったです。

・検証の段階における教師の支援と生徒の変容

調べる内容が学習問題や仮説につながり、それに必要な資料や情報を収集するように助言した。また検証がうまく進まないグループに対しては、資料や情報の活用のしかたを具体的な例を示して助言した。生徒は検証計画にもとづいてグループで協力し、学習問題や仮説の検証をすることができた。また自分たちのやり方で調べる内容や方法も工夫して行っているために学習に対して意欲的な生徒もふえてきた。話し合いや学習への取り組みがうまく機能していないグループは、教師の助言を受けて検証することができた。

グループで、資料や図書館の本を使って
調べた。むずかしい言葉の意味の分からないとか
ありてんていふたり先生にきいたりして、グループで
きちんとまとめた。

・結論・吟味・発展の段階における教師の支援と生徒の変容

検証したことをまとめて相手にわかりやすく伝えるための話し合いの場を設定した。生徒は調べたことをまとめて発表する時に、どの資料を活用するのか、地図や表などを用いて自分たちのやりたい表現の方法について話し合っ

自分達がいいたいと自分達の言葉で
表せてよかった。

ほかのグループの発表を聞いてグループさんの発表
は自分が決めているみたいでとてもおもしろい発表
だった。OHPをつかってよかった。
自分達のグループは、クイズを多く使ったと思う。
人様のグループは、絵や写真に書いててとても
よく楽しく勉強ができた。

仮説の1について、問題解決的な学習の各過程で適切な支援を行うと上記のように生徒は自分なりの学びの方法や考え方を身に付けて、主体的に学習する姿勢が見られるようになった。

仮説2について【生徒の思いや願いを把握し、表現の方法の提示や助言など適切な支援をすれば、生徒は多様な表現活動ができるであろう。】

表現活動は、調べたことを発表することだけではない。その調べたことをまとめるまでの活動が重要である。発表する内容が深まっていれば、表現の方法も多様になり、生徒の表現に対する意欲も高まると考えられる。表現の内容を深める活動は、仮説の1における支援を通して行った。ここでは紙芝居・壁新聞・劇化など具体的に示すことによって生徒の表現に対するイメージを広げ、意欲を高めるための表現の方法について支援を行った。その結果、次のような多様な表現活動が見られた。

各グループとも発表する際のメインの表現方法を壁新聞・紙芝居・劇化などと決め、それをもとに地図やグラフ、表、写真などをTPを用いて説明することができた。また発表したことを再確認するためにクイズを出題するなど自分たちの表現したいことをいくつかの方法を組み合わせ発表することができた。

右は生徒の作品である。新聞から、アメリカ合衆国の農業について、いろいろな資料を活用し、多様な表現を用いて、意欲的に取り組む姿が読み取れる。仮説2について、問題解決的な学習を通して、表現する内容を深め、教師の支援のもと生徒は多様な表現活動を行うことができたと考えられる。



V 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 生徒の実態を把握し、適切な支援を行うことで、問題解決的な学習の基本的なやり方を身に付けさせることができた。
- (2) グループ学習を中心に行い、話し合いの場を多く設定することで、学習活動が活発になり、問題を追究する方法や内容が深まり、表現活動を充実させることができた。
- (3) 発表がうまくできたことの充実感、最後までやり終えた成就感、まわりからの賞讃をうけることにより学習に対する意欲をもつことができた。

2 今後の課題

- (1) 生徒の多様な表現力を育てるために、資料活用能力の育成が課題である。
- (2) 問題解決的な学習の定着を図るために年間指導計画への位置付けが必要である。
- (3) 必修社会科で培った問題解決能力を選択社会科の授業や総合的な学習にどのように活用していくか課題である。

<主な参考文献>

文部省	『中学校学習指導要領解説』	大阪書籍株式会社	1998年
藤井千春	『問題解決学習のストラテジー』	明治図書	1996年
北尾倫彦	『自ら学び自ら考える力を育てる授業の実践』	図書文化	1999年
今谷順重	『新しい問題解決学習と社会科の授業設計』	明治図書	1996年